

令和 3 年 5 月 22 日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K12396

研究課題名(和文)少女雑誌にみる外来語の総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive research of loanwords in the magazines for girls

研究代表者

石井 久美子 (ISHII, Kumiko)

お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授

研究者番号：60774990

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大正期の少女雑誌『少女の友』に出現する外来語を調査した。原資料から外来語を抽出し、データベース化した。分析の結果、若年層においても外来語が盛んに用いられていることがわかった。一般名詞では具体的なものを指す外来語を中心に、少女の女性性と結びついた語が見られた。また、外国地名は『中央公論』『婦人公論』と共通する語が見られ、外国人名は文化人を中心とし、外国文化が積極的に紹介されていたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外来語は、明治には気取った感じを与えていたが、大正になって普通の日常語となったと言われている。しかし、大正期は15年と短くほとんど注目されてこなかったため、その使用実態については研究の余地が多分にある。特に、若年層の用いる外来語についての研究はこれまでなかった。本研究によって大正期に少女向けに用いられていた外来語、少女自身が用いていた外来語を明らかにすることができた。さらに、これまでに構築してきた大正期の『中央公論』『婦人公論』の外来語のデータベースと比較することで、年代や性別に関わらない外来語の使用実態を見ることができるようになった。

研究成果の概要(英文)：This research puts its focus on loanwords in the magazines for girls "Shojo no Tomo" in the Taisho period. The database was compiled from the loanwords that were extracted from source documents. The Result of analysis shows that young people also used many loanwords. Common nouns mainly meant concrete objects, and some of them showed the femininity of girls. The names of foreign places in this magazine are common to those in the magazine for adults "Chuo Koron" and "Fujin Koron". It was revealed that the names of foreigners were focusing mainly on cultural people and that foreign cultures were actively introduced in this magazine.

研究分野：日本語学

キーワード：語彙 外来語 少女雑誌

## 1. 研究開始当初の背景

外来語研究においては、近代から現代にかけての変遷および現代の外来語の特徴が明らかにされてきた。明治期は外国語を翻訳して受容していたが、明治後期は徐々に語彙量が増え、使用範囲が広がっており、大正・昭和初期になると、外国語の知識には一般化し、外来語が大衆化し、外来語辞典が刊行され、本格的な外来語研究が開始された時期であるといわれている。また、現代の外来語については、外来語の基本語化、日本語教育における外来語学習、コーパスを使った研究などさまざまな立場からの論考が見られる。しかし、大正期の外来語についてその使用実態をつかむことのできる研究はほとんど見られない。

## 2. 研究の目的

本研究では、大正期を中心に外来語の定着の様相を探る。明治期には気取った感じを与えた外来語も、大正期には「普通の日常語」と受けとられるようになったといわれている。「普通の日常語」とは何かを解き明かすため、研究代表者はこれまでに『中央公論』と『婦人公論』という大人向けの雑誌を対象に大正期の外来語を調査してきた。調査の過程で若年層が理解できる外来語は定着度が高いのではないかという考えに至った。そこで本研究では、大正期に発行された、少女対象の総合雑誌『少女の友』を資料に外来語を調査し、若年層にも理解できた定着度の高い外来語を明らかにすることを目的とした。さらに、これまでの『中央公論』『婦人公論』のデータと比較することで、少女雑誌の外来語の特徴を捉えることとした。

## 3. 研究の方法

国立国会図書館および大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵の大正期の『少女の友』を閲覧・複写した。アルバイトを募集し、外来語の抽出作業とExcelへの入力作業を行った。その際、『中央公論』『婦人公論』をデータベース化した博士論文と同じく、掲載ページ数や前後文、著者、掲載年、掲載号を入力する形式とし、比較しやすくした。作業者によってばらつきが生じないように、研究代表者によってデータベースを整えることにした。

コロナ禍では、対面での作業が難しくなったため、図書館の利用やアルバイトの作業を郵送やメール、Zoomを使った連絡に切り替えて対応した。

その他、少女雑誌および近現代外来語に関連する図書を購入し、論文を複写し、先行研究や論文執筆に利用した。

## 4. 研究成果

食のことは、一般名詞、固有名詞の3つの研究角度から大正期の『少女の友』の外来語の特徴を明らかにすることができた。

1つ目に、食のことはについては、和語・漢語で表されるものも含めて調査した。大正期には明治期に取り入れられた洋食のことが定着する時期であるといわれてきた。飲食に関する語を語種別に見ると、和語や漢語が多数を占め、当時の人々の食生活の基本となっているのは和食であることがわかった。外来語は、飲料・たばこや菓子に該当する語が多く出現していて、当時の新しい飲食物を指す語にも特段の説明が付されずに用いられている語が多く、既に少女達の日常に入り込んでいたことがわかった。なじみのない食の場合には、写真が添えられたり、外来語を用いずに従来のものに喩える手法が採られる様子が見られた。この成果は、「大正期の『少女の友』の食のことは」(ポリール・ザトラウスキー編『五感で楽しむ食の日本語』くろしお出版、2021年出版予定)に掲載される。

2つ目に、一般名詞の外来語については、幅広い意味分野の外来語が用いられ、投稿欄においても多くの外来語が使いこなされている状況が明らかになった。中でも具体的なものを指す語が多く見られることがわかった。これは、大正という時代の特徴であり、同時に読者であり投稿者でもある少女の女性性という部分と結びついた特徴といえる。一方で、学校や遊びなど若年層としての特徴も表れていた。略語や疑似外来語が確認されたことから、外来語が盛んに用いられ、外来語風というイメージができる状況にあったと考えられる。この成果は、「大正期の少女雑誌『少女の友』に見る一般名詞の外来語の特徴」(修徳健・斎藤倫明編『日本学叢書 日本語彙論』外語教学と研究出版社、2022年出版予定)に掲載される。

3つ目に、固有名詞の外来語については、外国地名と外国人名についての調査を行った。その結果、外国地名について、大人向けの雑誌である『中央公論』『婦人公論』と出現回数の多い語が一致しており、「英」「米国」といった略称も用いられていたことがわかった。表記に関しては漢字よりもカタカナ表記を用いる傾向が見られた。また、外国人名については、俳優・女優、作家、音楽家、歴史上の人物など文化人が中心に見られた。外国を舞台とする小説には登場人物名としての使用も見られた。こうした結果から、外国文化が積極的に少女たちに紹介されていたことが明らかになった。

最後に、本研究によって、大正期の『少女の友』の外来語に関するデータベースを構築することができた。2021年度から3年間にわたり、若手研究21K13013「少年雑誌にみる外来語の総合

的研究」で、大正期の少年雑誌『日本少年』の外来語の研究を行うことになった。研究代表者がこれまでに調査を行ってきた大正期の雑誌（『中央公論』『婦人公論』）の外来語のデータとの比較によって、大正期の外来語を多角的に見た研究を続けていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 石井久美子	4. 巻 -
2. 論文標題 「資料の説明」「先行研究」「大正期『婦人公論』における合成語 外来語を含むものに注目して」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高崎みどり編『大正期『中央公論』『婦人公論』の外来語研究 論と広告にみるグローバリゼーション』 富山房インターナショナル	6. 最初と最後の頁 15-47、208-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井久美子	4. 巻 15
2. 論文標題 「明治初期の新聞連載に見られる語彙と表記の特徴：『安愚楽鍋』から『仮名読新聞』『開化諺競』への展開」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『お茶の水女子大学人文科学研究』	6. 最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石井久美子	4. 巻 -
2. 論文標題 「大正期の『少女の友』の食のことば」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ポリー・ザトラウスキー編『五感で楽しむ食の日本語』くろしお出版	6. 最初と最後の頁 243 - 263
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井久美子	4. 巻 -
2. 論文標題 「大正期の少女雑誌『少女の友』に見る一般名詞の外来語の特徴」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 修徳健・斎藤倫明編『日本学研究叢書 日本語語彙論』外語教学与研究出版社	6. 最初と最後の頁 第4部第9章
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石井久美子
2. 発表標題 話し言葉の外来語
3. 学会等名 シンポジウム「話し言葉の多様性」（国立国語研究所）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井久美子
2. 発表標題 明治期の新聞連載に見る語彙的特徴 『安愚楽鍋』から『仮名読新聞』へ
3. 学会等名 第353回日本近代語研究会春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井久美子
2. 発表標題 明治期小新聞に見る場と文脈に依存する表記
3. 学会等名 第40回表記研究会研究発表会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------